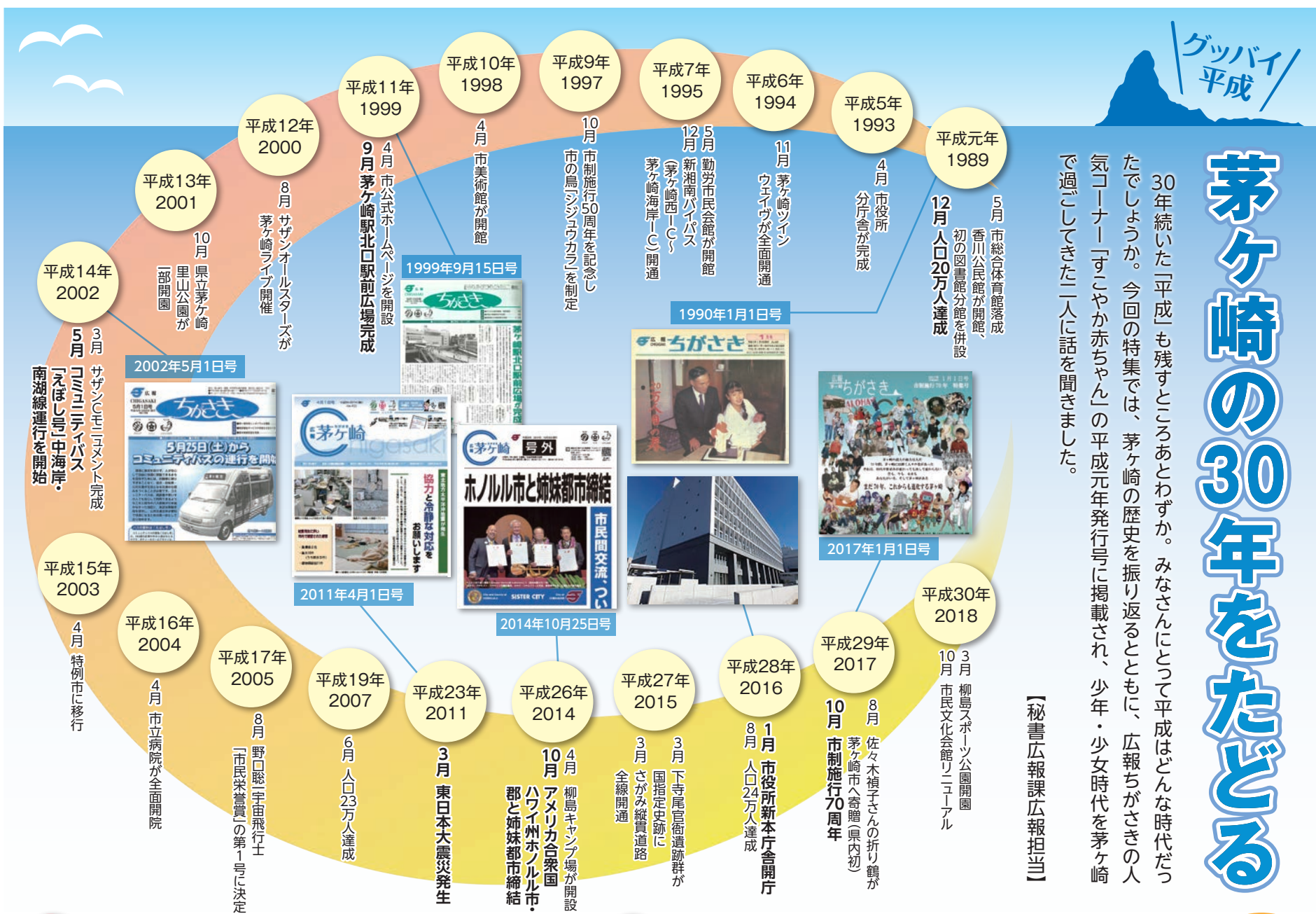


30年続いた「平成」も残すところあとわずか。みなさんにとって平成はどんな時代だったでしょうか。今回の特集では、茅ヶ崎の歴史を振り返るとともに、広報ちがさきの人気コーナー「すこやか赤ちゃん」の平成元年発行号に掲載され、少年・少女時代を茅ヶ崎で過ごしてきた二人に話を聞きました。

【秘書広報課広報担当】



すこやか赤ちゃん

「地元で得た学び」愛娘にも

梅原 咲英さん(30)

「この地で育ててくれた両親にはとても感謝していき
思ひ出です」

「自然を大切にする気持ち、人や文化をオープンに受け入れる寛容さなど、生活のあり方や人への接し方をこのまちから学びました娘にも茅ヶ崎で多くのことを感じてもらい、成長してほしいですね」。愛娘を見つめ、そつと語りかけた。

平成元年
1989

平成31年
2019



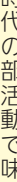
中央公園は馴染み深い場所と言い、
「よく花見をしていました」と振り返る

音楽に捧げた青春時代

湯浅 悠介さん(30)

茅ヶ崎で過ごした約20年はフルートやトランペットの管楽器に熱中した。現在も中学校の卒業生で集う楽団で練習を重ね腕を磨く。昨年12月には、10年ぶりに思い出の地である市民文化会館でトランペットを演奏。「久々の演奏でしたが、音の跳ね返りが全然違いました。合っていくつもりだ。

学生時代の部活動で味わった喜怒哀楽の気持ちを思い出しましたね」と笑う。



て「当時は

平成元年
1989

平成31年
2019

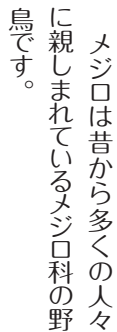


赤ちゃんの頃の写真を見て「当時は
まん丸な顔をしてましたね」

茅ヶ崎の身近な

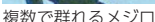
メジロ

写真・文／文化資料館自然資料整理グループ



目の周りの白い輪が特徴

マジロは日本全国に分布し、県内では一年中見られます。市内北部の丘陵地から平止まることから、混雑している様子や物事が連続して続くことを「目白押し」といいます。



地の常緑広葉樹林に生息し、住宅地や庭、公園にも訪れます。大きさは約12^{ポンド}、重さは約12^{ポンド}とスズメより小さく、丸い体に明るい緑色の羽毛が生え、のどは黄色、背は暗い黄緑色をしています。

美しい鳴き声の持ち主

この白い輪の絹糸で刺繍をしたような模様から、中国語で「繡眼鳥」、日本語では「目白」「眼白」と書きます。



目白押しの語源

マジロは小さな昆虫、花の蜜、果汁、木の実などを好みます。気性の激しい面があり、縄張り争いでは攻撃的になります。

庭やベランダに来るメジロの模様や白い輪の形などの特徴から個体の区別がつけば、さらに身近な鳥として感じるこ
とができるでしょう。